

情報の価値を企業全体で活用する



IBM Information Management software



# IBM InfoSphere Master Data Management Server

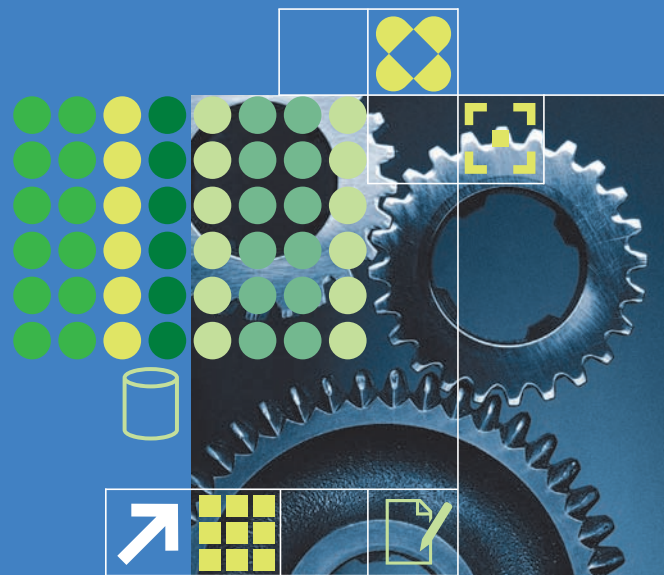
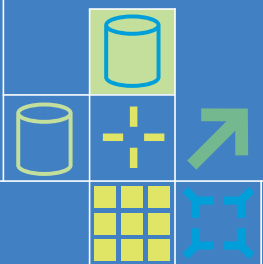
Technical Overview

顧客、仕入先、商品、契約など、ビジネスに不可欠な価値の高い情報のことをマスター・データと呼びます。様々な業界において企業が直面しているビジネス課題は、このマスター・データと深く関係しています。この重要なビジネス情報であるマスター・データが、部門、支店、アプリケーション間で重複、断片化されている状況は、マスター・データが有効かつ包括的に管理されていないことの表れとして認識されるようになりました。ダイナミックに変化するビジネス要件を満たすことのできるIT能力が、今企業には求められています。

IBM® Multiform Master Data Management (MDM)は、企業全体でのマスター・データ管理を目的に設計された、実績のあるフレームワークによってマスター・データ管理の課題に取り組みます。MDMが基本原則とするのは、マスター・データを業務システムやトランザクション・システム、分析システムなどから切り離し、独立した集中リポジトリ、つまりハブに集約することです。集約された情報は、サービス指向アーキテクチャー (SOA) のビジネス・サー

ビスに渡されるため、データは各種業務やシステム、アプリケーションから独立して管理されます。このような管理方法により、企業はすべてのシステム、アプリケーションに共通する機能性を識別し、ビジネス情報やプロセスを効率的かつ一貫して活用できるようになります。

マスター・データ問題への取り組みが始まった当初はビジネス・ニーズに基づくアプローチが主流であり、顧客情報や商品情報などの特定のデータ・ドメイン1つか2つに対応するのが普通でした。このようなアプローチから生まれたのが、MDM市場でよく知られている顧客データ統合 (CDI) や商品情報管理 (PIM) などのカテゴリーです。現在CDIやPIMは、MDMのサブカテゴリーとして考えられています。





## 企業のSOA基盤となるIBM Multiform MDM

IBM Multiform MDMは、今までのデータ管理集中化とは異なる新しいソリューションです。複数のドメインおよび複数のデータ活用スタイルを提供し、ユーザーによる完全なデータ管理を実現します。アプリケーションがどのようにマスター・データを利用し、データ・ライフサイクル(全社規模でのデータの作成、管理、アクセスなど)を反映するかによって、IBM Multiform MDMは基本的に次の3つのデータ活用スタイルに分類されます。

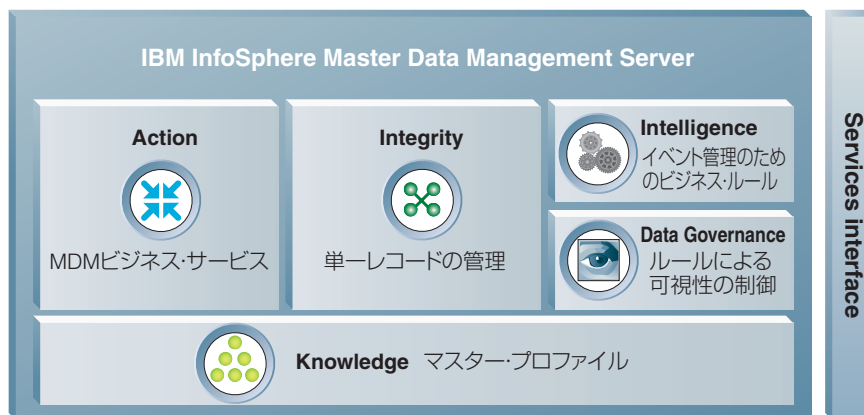
- 1. コラボレーティブMDM**—マスター・データを作成、定義、同期化するプロセスを管理します。この活用スタイルは、マスター・データを明確に定義することに焦点を当てています。
- 2. オペレーショナルMDM**—業務プロセスおよび業務アプリケーションの中でマスター・データを利用、管理する活用スタイルです。リアルタイム・アクセスが可能なSOAサービスを介し、他のシステムがマスター・データを使用できるようにします。

- 3. アナリティカルMDM**—正確かつ整合性のある最新のマスター・データをデータウェアハウスに提供します。この活用スタイルには、ビジネス・インテリジェンスによって得られた洞察データをコラボレーティブMDMやオペレーショナルMDMにフィードバックする機能があります。

MDM製品は、それぞれ対応するドメインの範囲が異なります。単一ドメインに特化している製品の場合、顧客、商品、仕入先、ロケーション、契約などのドメインを1つだけ管理します。一方、統合された複数のドメインに対応できる製品の場合、各ドメインの情報だけでなく、ドメイン間の関係を価値ある情報として活用できます。

ITの面においても、Multiform MDMは非常に大きなメリットをもたらします。SOAの出発点および基礎となるだけでなく、独自のプラットフォーム設計により、既存のフロントエンド・システム、バックエンド・システム、さらにサードパーティ・アプリケーションとの統合が、チャネルや組織の境界を越えて全社規模で可能になるため、IT管理者はそれまで投資してきたシステム資産を引き続き活用することができます。

IBM InfoSphere MDM Serverは企業の主要なビジネス情報を一元管理して、統合されたビューを提供します



IBM® InfoSphere™ Master Data Management Serverは、IBMが提供するオペレーショナルなMDMソリューションです。深刻なMDMの課題を解決するのに企業が必要とする、戦略的なアーキテクチャーを備えています。MDM Serverは、カスタマー・リレーションシップ・マネージメント(CRM)、エンタープライズ・リソース・プランニング(ERP)、ビジネス・インテリジェンス(BI)などのシステムや統合ツール、データウェアハウスなどに対する投資から、企業が最大の利益を得るための支援を行います。MDM Serverは顧客、契約、製品など、複数のドメインに対するマスター・データを管理するだけでなく、ロケーションやプライバシー設定などの他のデータ・タイプにも対応しています。ビジネス・サービスを介し、MDM Serverはマスター・データを利用するすべてのアプリケーションとビジネス・プロセスの統合を促進します。

### IBM InfoSphereMDM Serverの充実した機能性

IBM InfoSphere MDM ServerのアーキテクチャーはJava™ 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™)やXMLなどの主要な業界標準をベースに構築されています。非常に高いパフォーマンスと拡張性を併せ持ち、重要性の高いビジネス機能を備えています。例えば用意されているMDMビジネス・サービスは700以上あり、すべて実績のあるMDMデータ・モデルとシームレスに連動します。サービスとモデルは、いずれも拡張性に優れた設計です。この特長は新機能の追加や機能の更新に必要なリード・タイムを大幅に短縮し、IT組織の総所有コスト(TCO)を削減します。

### 拡張性に優れたMDMビジネス・サービス

IBM InfoSphereMDM Serverにはオペレーショナルなサービス指向のアプリケーションとして、700以上ものMDMビジネス・サービスが用意されています。マスター・データへのアクセスと管理はすべてこのビジネス・サービスを經由して行われます。

これらのサービスは様々なレベルの粒度で構成することで、導入の柔軟性を高めています。例えばビジネス・レベルでは、AddParty(新規顧客の登録)やAddAccount(新規口座情報の



IBM InfoSphere MDM Serverの主要コンポーネントには、次のようなものがあります。

• **マスター・データ・リポジトリ**

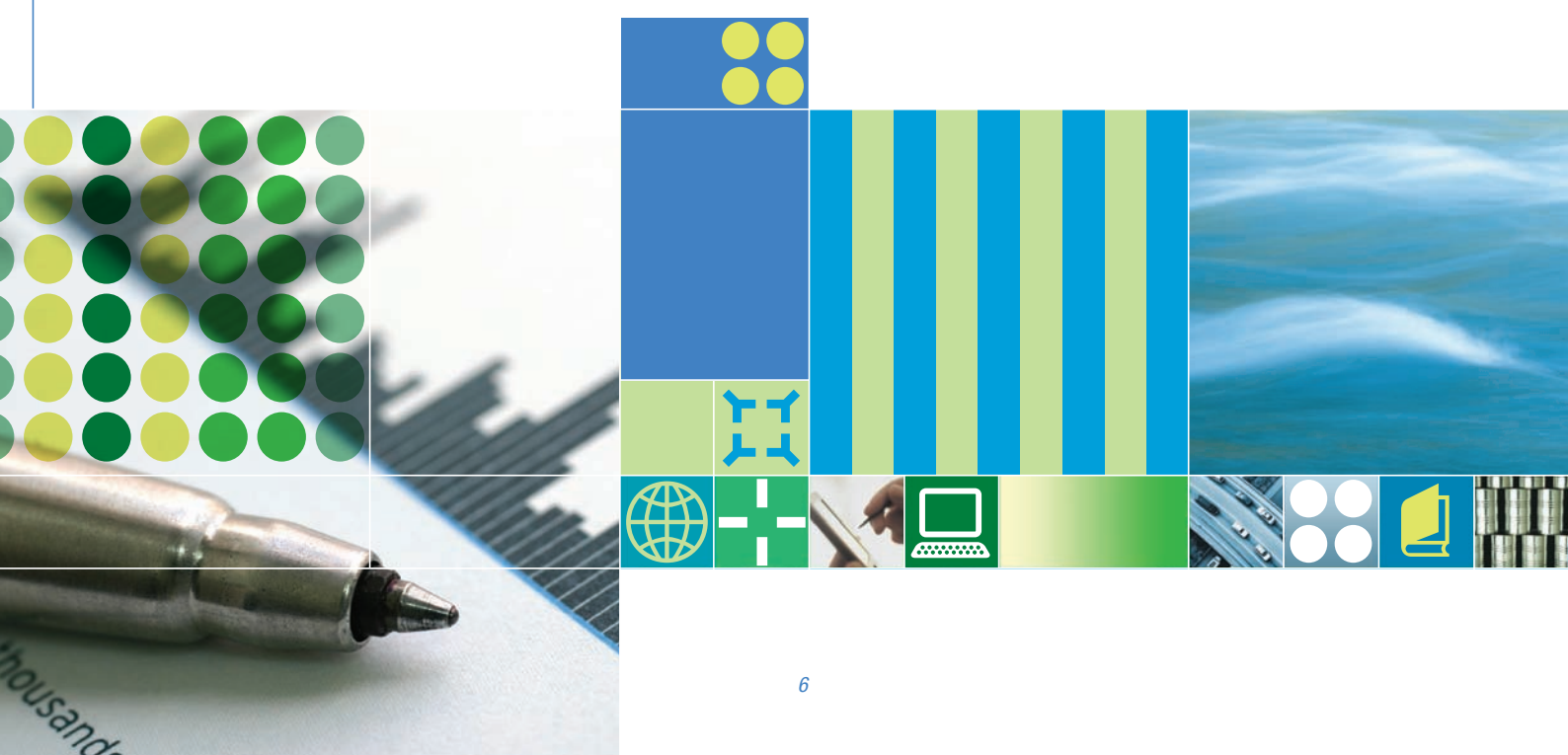
拡張性、カスタマイズ性に優れたデータ・モデルにすべてのマスター・データを格納したオペレーショナル・データベースです。パーティー、商品、契約、およびロケーションなどのドメイン情報に関するマスター・データが含まれます。さらに年齢、性別、職業、応対履歴、プライバシー、イベント・データなどが、各ドメインの役割・リレーションシップ情報とともに格納されています。

このデータ・モデルには、ドメイン・データのグループ化や階層を管理する機能が備えられています。高度なカスタマイズも可能なため、ビジネスは非常に高い柔軟性をもってMDMビジネス・サービスを利用できます。MDM Design Workbenchはデータ・モデルの拡張や構成、コード・テーブルの定義、名称変更、データ・モデルの一部無効化などにより、企業の既存データ・モデル

のサポートを容易にします。さらに、マスター・データ・リポジトリには監査証跡データベースも含まれるため、IT管理者はすべてのマスター・データの監査証跡を効率よく管理できます。

• **MDMインテグリティ**

IBM InfoSphere MDM ServerのMDMインテグリティ層は、パーティーのマッチング、データの検証、データの標準化、および外部参照IDなどのデータ品質を管理します。このプラットフォームには、決定論的マッチング・エンジンが備えられており、基本ID属性に関するマッチング・ルールもすでに設定されています。決定論的マッチング・エンジンが適当でない場合、IBM Information ServerのモジュールであるIBM WebSphere® QualityStage™を利用すれば、より高度な確率性マッチングを行うことができます。WebSphere QualityStageでは、より高度な名前とアドレスの標準化が可能です。MDMインテグリティ層は、標準化およびマッチングのサードパーティ・ツールをインストールするためのアダプターも提供しています。



• **MDMインテリジェンス**

InfoSphere Master Data Management ServerのMDMインテリジェンス層には、ビジネス・ルールおよびイベント検出機能が含まれており、これらはMDMビジネス・サービスと完全に統合されています。この特長により、IT管理者はサービス自体のプログラムを変更せずに、外部のビジネス・ルールをカスタマイズできます。ルール変更の際には、外部のルール・コンポーネントまたはMDM Extension Frameworkを使用します。

• **MDMデータ・ガバナンス・サービス**

トランザクションおよびデータ属性に基づいた権限付与を可能にし、データ・ガバナンスのプライバシーやデータの安全性を保護します。マスター・データの表示、更新などの権限は、ユーザーの役割に応じて、データ属性やトランザクションのレベルで詳細に制限できます。

• **SOAサービス・インターフェース**

複数のシステムやアプリケーションをMDMビジネス・サービスと統合します。MDMビジネス・サービスは、マスター・データ・リポジトリに格納されているマスター・データにアクセスするのに必要なサービスです。サポートされている標準インター

フェースには、Webサービス、XML/HTTP、Javaオブジェクト、IBM CICS®、その他各種のメッセージング・アダプターなどがあります。

• **MDM Data Stewardshipユーザー・インターフェース**

分かりやすいグラフィカル・インターフェース上で、グループや階層の管理、パーティーの名寄せなど、様々なコラボレーティブ・データ・プロセスを管理できます。

• **MDM Event Management**

MDM Event Managementクライアントは、パーティーレベルでのイベントトリガーとプロセス・スケジューリング機能を提供します。イベント・マネージャーは、名寄せが必要な場合にMDMインテグリティ層の整合性確保機能呼び出します。

• **MDM Batch Job Manager**

このクライアント・アプリケーションは、バッチ処理を管理するためのペーシング、ロギング、マルチスレッドなどの機能を提供します。





## 詳細情報

InfoSphere Master Data Management Server  
の詳細については、以下のWebサイト(英語)  
をご覧ください。

[ibm.com/software/data/masterdata](http://ibm.com/software/data/masterdata)

IBM製品・詳細情報については、  
IBMホームページ<http://www.ibm.com/jp/>  
をご利用ください。

お問い合わせは、IBMビジネスパートナー、  
製品販売店、弊社営業担当員  
または、ダイヤルIBM(0120-04-1992)へ。

受付時間:月～金 9:00～18:00

(祝日、12/30～1/3を除く)

携帯電話でおかけのお客様は下記の電話  
番号をご利用ください。

ダイヤルIBM 03-6220-8002(この場合通  
話料はお客様のご負担となります。)

© Copyright IBM Corporation 2007

## 日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

Produced in Japan  
February 2008  
All Rights Reserved

IBM、IBMロゴ、CICS、InfoSphere QualityStage、  
WebSphereは、International Business Machines  
Corporationの米国およびその他の国における商  
標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは  
Sun Microsystem, Inc. の米国およびその他の国に  
おける商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞ  
れ各社の商標です。

本書において、IBM製品、またはサービスについて  
言及または説明する場合があります。しかし、この  
ことは、IBMが営業を行っているすべての国におい  
てこのような製品、またはサービスが利用可能で  
あることを必ずしも示すものではありません。ま  
た、内容は、予告なしに変更する場合があります。

このカタログの情報は2008年2月現在のものです。

**TAKE BACK CONTROL WITH Information Management**

